

# 2025年度事業計画

(2025年4月1日から2026年3月31日)

公益財団法人 十六地域振興財団

## 1. 基本方針

2023年度に株式会社十六フィナンシャルグループ株式の信託受益権を取得し、2024年11月に新規公益目的事業として美術工芸品等展覧事業の内閣府認定を受けたこと。また、2025年11月にはクララザールじゅうろく音楽堂10周年であることから、著名アーティストによる10周年記念特別公演を複数回開催し、芸術文化の支援に努めていく。

これらを踏まえ、2025年度は地域発展に貢献すべく各事業の基本方針を以下の通りとします。

地域活性化支援事業については「岐阜県及び愛知県の経済発展のため全力を傾注する」とし、地方公共団体や地域の公共的な団体との連携を深め、将来にわたり効果が期待できる事業に対し積極的に助成するよう努める。

奨学金給付事業については、「これからの岐阜県又は愛知県を担う若者の教育機会を経済的側面から支援し、もって人材の育成に寄与する」という本事業の創設趣旨に沿い、引き続き真に支援を必要とする有為な人材を選考するよう努める。

芸術文化の振興及び支援活動事業について、質の高い音楽芸術の提供に加え、新たに美術工芸品等を広く一般に公開し、地域住民の美術・文化に対する関心と認識を高め、共に「豊かで潤いのある生活および活力ある地域社会の実現に寄与する」ことを目的として、岐阜県及び愛知県内の芸術文化の普及・振興及び支援に努める。

## 2. 事業について

### (1) 地域活性化活動支援事業について

#### ① 助成の額

地域社会活性化をはかるための諸活動に対し6,000千円の助成を行う。

ア 地域の産業振興助成事業	2,000千円
イ 社会生活環境整備助成事業	1,000千円
ウ 文化・スポーツ・国際化活動等助成事業	2,000千円
エ 研修会及び講演会の開催並びに人材育成助成事業	1,000千円
上記助成事業別の内訳は目安とする。	計6,000千円

#### ② 助成の種類と受付期間

ア 一般助成	通年受付
イ 産学連携推進助成	7月1日から9月30日(予定)
ウ 花の苗木給付助成	10月1日から10月31日(予定)

### (2) 奨学金給付事業について

#### ① 2025年度新規奨学生の募集、選考スケジュール

2025年度の新規奨学生として12名程度を予定。募集概要は次のとおり。

一人あたり支給額	年間400,000円×4年間(返済不要の給付型)
募集受付	2月13日(木)～4月4日(金)

一次選考(書面)	5月上旬
二次選考(書面・面接)	5月24日(土) 予定
最終決定	6月上旬
奨学生決定証書授与式	10月下旬～11月上旬

② 採用年度別の人員、年間支給額の内訳

採用年度	人数(人)	一人当たり年額	総支給額
2022	10	400,000円	4,000,000円
2023	10	400,000円	4,000,000円
2024	12	400,000円	4,800,000円
新規2025	12	400,000円	4,800,000円
計	44	400,000円	17,600,000円

2025年度の奨学金給付事業の実払い額は17,600千円となりますが、2025年度奨学生12名の今後4年間分の給付予定額を2025年度に確保することが求められており、予算額としては19,200千円(年間400千円×12人×4年間)を計上します。

(3) 音楽芸術文化の振興及び支援活動事業について

「クララザールじゅうろく音楽堂」にて行う音楽芸術文化の振興及び支援活動事業。岐阜県及び愛知県の住民の音楽ニーズを捉えたコンサートおよび演奏機会を求める将来ある若手演奏家等のコンサートを企画・開催する(主催公演事業＝公益目的事業)。また2025年11月にクララザールじゅうろく音楽堂の10周年を踏まえ、著名なアーティストによる10周年記念特別公演を複数企画します。また、ホールの空き時間の有効活用として地域住民に貸与し音楽芸術文化の発表の場を提供する(施設貸与事業＝収益事業)。

① 主催公演事業＝公益目的事業

年間6回の開催を予定

② 施設貸与事業＝収益事業

年間55回の貸与を予定

(4) 美術芸術文化の振興及び支援活動事業について

新たな公益目的事業として、美術工芸品等を広く一般に公開し、地域住民の美術・文化に対する関心と認識を高めていく。新規公益目的事業として、まずは十六銀行本店ビルの館内にて、地元出身画家等の作品を含め、豊かで良質な絵画等の展示を行っていく。

(5) 広報活動

前年度は「クララザールじゅうろく音楽堂」のホームページを一部変更し、過去の公演・アーティストを閲覧することができるよう改善を図った。今後もホームページをはじめ新聞、デジタルサイネージ等、多様な媒体を駆使し、それぞれ適切な形にて公益目的事業活動を発信することで、地域社会における当財団の貢献度、プレゼンスを高めるよう努めていきたい。

以上